

宮崎労働局長から企業トップへの「働き方改革」要請

－株式会社フェニックスシステム研究所－

平成30年6月11日、吉田宮崎労働局長が、株式会社フェニックスシステム研究所の事業所長 甲斐英治さんから「働き方改革」の取組状況をお聴きし、更なる取組の推進をお願いしました。

訪問企業名	株式会社フェニックスシステム研究所
所在地	宮崎市佐土原町東上那珂16079-35
労働者数	184名
事業内容	情報サービス業（コンピュータ、ソフトウェアの研究、開発等）

▶時間外労働の縮減について

3年前から本格的に時間外労働の短縮に取組んできた。以前は部門に任せきりになっていたが取組みを始めて当時と比較すると総残業時間は2割減となった。

まずは、定時退社日の推進や深夜残業の原則禁止などに取組んだ。業務の性質上、スタートから納期という、いくつものプロジェクトが並行して進んでおり、スケジュール通りに進めば残業は増えないが、仕様の変更や不具合によって残業が増加する。そこで一定の不具合等を想定し、進捗管理をする部門を設置するという逆の発想に立ち、第3者のチェック機能とトップダウンの両面から取組み、システムの品質向上と残業時間の削減に相乗効果をもたらす結果となった。定時退社日についても呼びかけるだけでなく、チェックすることで残業に対する意識改革を促し実効性が生まれた。

また、フレックスタイムについては早くから導入していたが、さらにコアタイムを以前より一時間前倒しにすることで残業の削減にもつながった。

▶年次有給休暇の取得について

有給休暇取得推進日を設定し、休日の前後などを活用して連続休暇を推進している。

▶人材確保について

社内に教育システムが構築されており、入社後の研修体制も整っている。

また、毎年、地元の高校に対して職場見学会やインターンシップの受け入れを実施しており、それらに参加した生徒の中から、現在社員として活躍している者もいる。今後も定期的な地元の高校・大学生の採用を続けていく予定である。

▶仕事と家庭の両立支援について

平成27年に宮崎県内のIT企業で第1号の「くるみん」認定を受けており、社員が仕事と子育てを両立できる環境づくりに取り組んできた。さらに、女性社員が2割程度

おり、その労働力は必要不可欠な戦力となっていることから、出産後も育児休業や時短勤務などで女性が働き続けられる職場を目指している。従業員からの要望もあり、育児の時短勤務は小学6年生まで（子の看護休暇は小学3年生まで）と対象を拡充している。



吉田労働局長（左）と事業所長 甲斐英治さん（右）